



Setting samples Azureモデル 導入手順

※本書では「Exastro IT Automation」を「ITA」、「Setting samples Azureモデル」を「Azureモデル」と記載します。

第1.0版 (ITAバージョン1.9.1/1.10.0版)

Exastro developer

目次

1. はじめに

1. はじめに
2. 連携サービスとの動作確認
3. オペレーション名とサブネット/通信ルール/仮想マシン設定の関係について
4. サブネットと仮想マシンの関係について
5. 通信ルールについて

2. Azureモデルを使う準備

1. ITAの準備
2. Azureモデルのインポート
3. Azure Portalの利用準備

3. Azureモデルの実行

1. マスタ情報登録

1. 方向の登録
2. アクセスの登録
3. プロトコルの登録

2. Azureモデルで仮想マシン操作

1. オペレーション作成
2. 共通パラメータ登録
 1. プロバイダー設定
 2. リソースグループ設定
 3. 仮想ネットワーク設定
 4. サブネット設定
3. Linuxマシンパラメータ登録
 1. 通信ルール設定_Linux
 2. 仮想マシン設定_Linux
4. Windowsマシンパラメータ登録
 1. 通信ルール_Linux
 2. 仮想マシン設定_Linux
5. 仮想マシン設定で利用できる値について
6. Conductor実行

3. 実行結果の確認

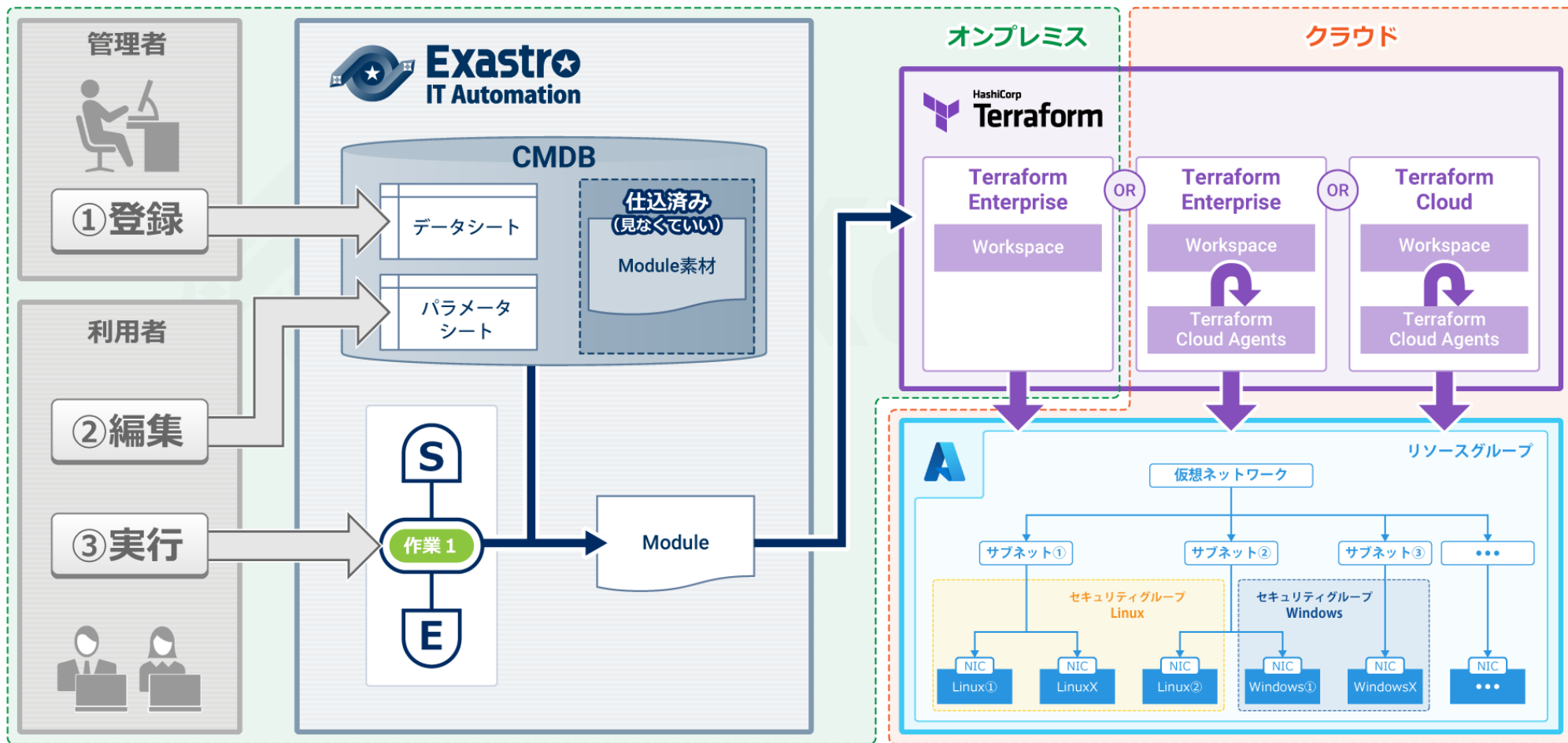
4. こんなときは？

1. 作成したLinuxにSSHができない。

1. はじめに

1.1 はじめに

このドキュメントは、AzureモデルをITAにインポートして実行するまでの手順を記載しています。Azureモデルを使って何が出来るか知りたい方は、コミュニティサイトの「Azureモデル概要」をご参照ください。



1.2 連携サービスとの動作確認

Azureモデルは以下のバージョンでの動作確認しています。

No.	サービス名	利用条件
1	Exastro IT Automation	バージョン1.9.1/1.10.0
2	Terraform Cloud	1.1.7
3	Terraform Azure Provider (azurerm)	3.0.2

1.3 オペレーション名とサブネット/通信ルール/仮想マシン設定の関係について

Azureモデルでは「オペレーション名」と下記3つのメニューのレコードは1対多の関係で管理することを想定しています。

オペレーション名：XX用仮想マシン作成

「サブネット設定」メニュー

レコード-1

「通信ルール設定」メニュー

レコード-1

「仮想マシン設定」メニュー

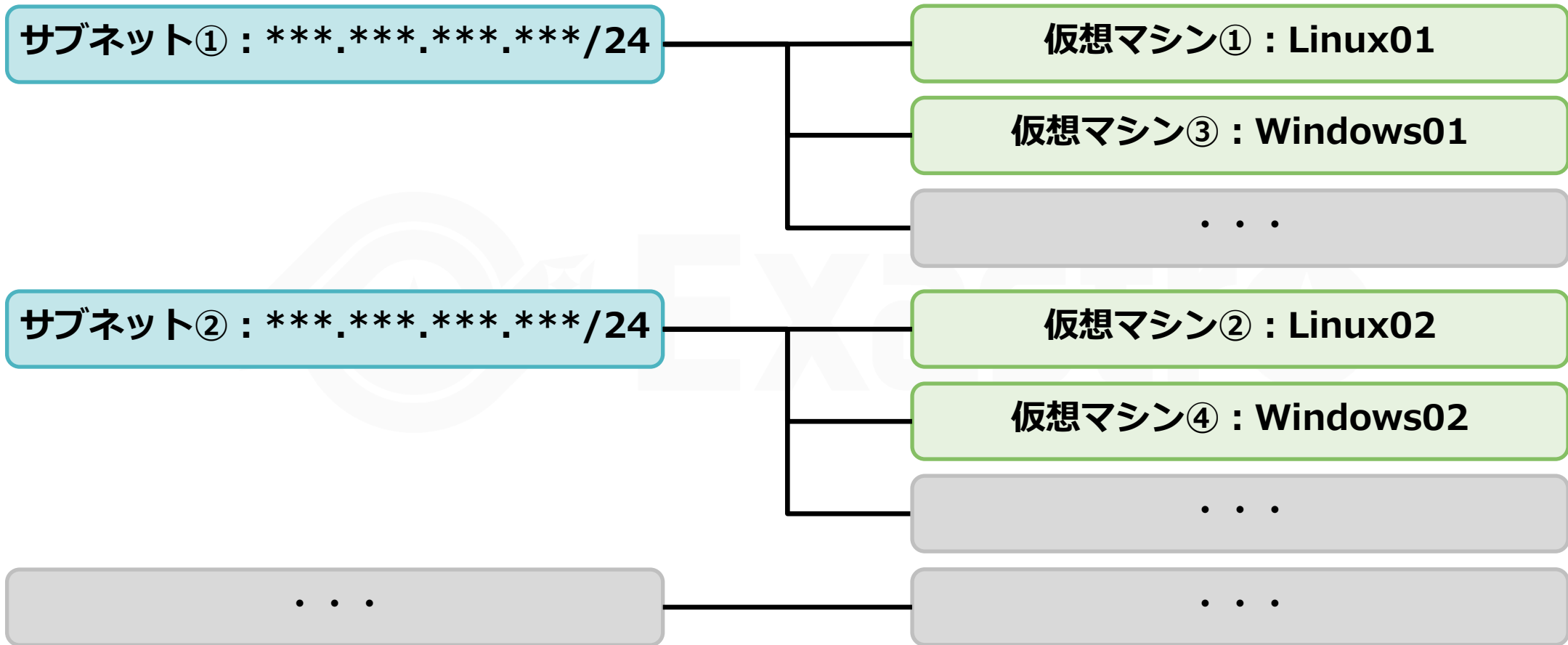
レコード-1

POINT →

同時作成可能数はそれぞれは5個までです。

1.4 サブネットと仮想マシンの関係について

Azureモデルでは「仮想マシン」が所属する「サブネット」を指定することが可能です。



POINT ➔

同時作成可能な仮想マシンの数は全体で10台（Linux/Windowsそれぞれ5台まで）です。
一つのサブネットに対して、LinuxとWindowsが混在しても問題ありません。

1.4 サブネットと仮想マシンの関係について

■ 設定例

メニュー名：サブネット設定

履歴	複製	更新	廃止	No	オペレーション					代入順序	名前	利用するサブネットの代入順序
					ID	オペレーション名	基準日時	実施予定日時	最終実行日時			
履歴	複製	更新	廃止	1	270,001	仮想マシン作成	2022/04/01 12:00	2022/04/01 12:00		1	linux-subnet01	172.10.1.0/24
履歴	複製	更新	廃止	2	270,001	仮想マシン作成	2022/04/01 12:00	2022/04/01 12:00		2	linux-subnet02	172.10.2.0/24
履歴	複製	更新	廃止	3	270,001	仮想マシン作成	2022/04/01 12:00	2022/04/01 12:00		3	windows-subnet01	172.10.3.0/24

「Linux01」と「Linux03」は代入順序1のサブネット(ここではLinux-subnet01)に作成する。

メニュー名：仮想マシン設定_Linux

履歴	複製	更新	廃止	No	オペレーション					代入順序	名前	利用するサブネットの代入順序
					ID	オペレーション名	基準日時	実施予定日時	最終実行日時			
履歴	複製	更新	廃止	1	270,001	仮想マシン作成	2022/04/01 17:06	2022/04/01 12:00	2022/04/01 17:06	1	Linux01	1
履歴	複製	更新	廃止	2	270,001	仮想マシン作成	2022/04/01 17:06	2022/04/01 12:00	2022/04/01 17:06	2	Linux02	2
履歴	複製	更新	廃止	3	270,001	仮想マシン作成	2022/04/01 17:06	2022/04/01 12:00	2022/04/01 17:06	3	Linux03	1

代入順序1

代入順序2

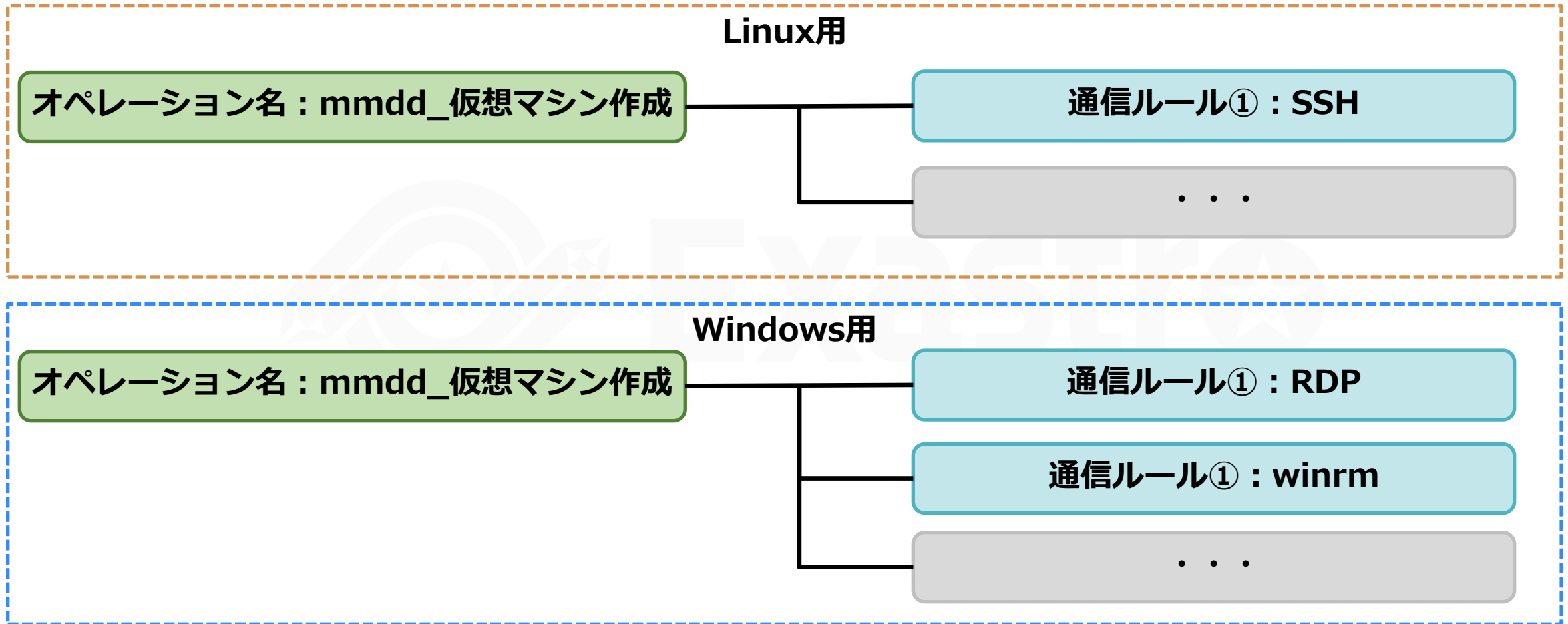
代入順序3

メニュー名：仮想マシン設定_Linux

履歴	複製	更新	廃止	No	オペレーション					代入順序	名前	利用するサブネットの代入順序
					ID	オペレーション名	基準日時	実施予定日時	最終実行日時			
履歴	複製	更新	廃止	1	270,001	仮想マシン作成	2022/04/01 17:06	2022/04/01 12:00	2022/04/01 17:06	1	Windows01	3
履歴	複製	更新	廃止	2	270,001	仮想マシン作成	2022/04/01 17:06	2022/04/01 12:00	2022/04/01 17:06	2	Windows02	3

1.5 通信ルールについて

Azureモデルでは「通信ルール」設定はLinux用とWindows用とそれぞれで設定を行います。



同時設定可能な通信ルール数はLinux/Windowsでそれぞれ5個までです。

2. Azureモデルを使う準備

2.1 ITAの準備

■ サーバの準備

[公式ドキュメント](#)の[システム構成／環境構築ガイド 基本編](#)を参考にサーバを準備します。

■ ITAのインストール

- サーバが準備出来たら[Installページ](#)を参照しながらITAをインストールします。
- ITAはバージョン1.9.1以上をインストールしてください。
- ita_answers.txt内のdb_nameを「ITA」としてください。

```
# Decide the database name, username, and password for ITA.  
# e.g) db_name:sample_db_name  
db_name:ITA
```

2.2 Azureモデルのインポート

■ Azureモデルの導入ファイルのダウンロード

GitHubからAzureモデルの導入ファイル(.kym)をダウンロードします。

URL: <https://github.com/exastro-suite/it-automation-settingsamples-azure/releases>

■ ダウンロードしたファイルをITAにインポート

導入ファイルをExastroの「エクスポート/インポート」機能を使ってITAへインポートします。

「エクスポート/インポート」機能はコミュニティサイトの [ITA 利用手順マニュアル エクスポート/インポート](#) に記載されています。

2.3 Azure Portalの利用準備

Azure 利用準備

- 公式のドキュメントなどを参考に下記を準備してください。
 - ・ サブスクリプションID
 - ・ テナントID
 - ・ クライアントID
 - ・ クライアントシークレット

Azure PortalのURL

- <https://azure.microsoft.com/ja-jp/features/azure-portal/>

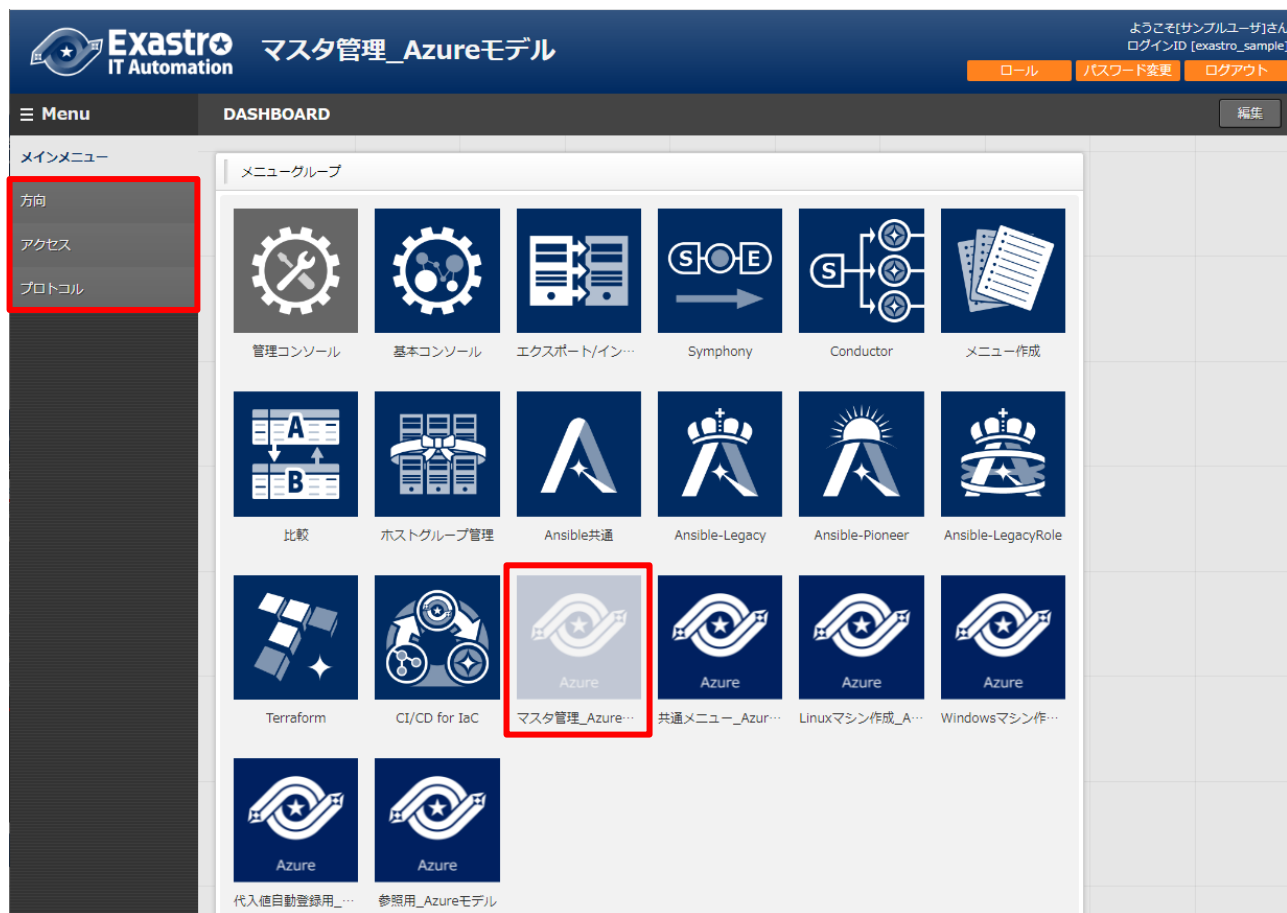
POINT

クライアントシークレットは後で確認できないので、作成時にメモなどに保存ことをお勧めします。

3. Azureモデルの実行

3.1 マスタ情報登録

Azureモデルでは、パラメータシートへの入力にプルダウン選択するように設定されています。一般ユーザが仮想マシン操作を実行する際に入力ミスが起こらないようにするためです。プルダウンで選択するための元データは「マスタ管理_Azureモデル」メニューグループに登録されています。



POINT →

最低限のレコードは登録済のため、基本的には登録不要です。

3.1.1 方向

「方向」メニューに通信ルールに設定するセキュリティの方向を登録します。



Exastro
IT Automation

マスタ管理_Azureモデル

ようこそ[サンプルユーザ]さん
ログインID [exastro_sample]

ロール

パスワード変更

ログアウト

Menu

メインメニュー

方向

アクセス

プロトコル

説明

表示フィルタ

一覧/更新

登録

通信ルール設定で利用するプルダウンを管理するメニュー

No	方向*	アクセス権		備考	最終更新日時	最終更新者
		設定	アクセス許可ロール			
自動入力	<input type="text"/>	設定			自動入力	自動入力

※*は必須項目です。

戻る

登録

項目	入力内容
方向	※[最大長]64バイト

3.1.2 アクセスの登録

「アクセス」メニューに通信ルールに設定するアクセス種別を登録します。



ようこそ[サンプルユーザ]さん
ログインID [exastro_sample]

ロール

パスワード変更

ログアウト

マスタ管理_Azureモデル

Menu

メインメニュー

方向

アクセス

プロトコル

説明

△閉じる

通信ルール設定で利用するプルダウンを管理するメニュー

表示フィルタ

▽開く

一覧/更新

▽開く

登録

△閉じる

No	アクセス*	アクセス権		備考	最終更新日時	最終更新者
		設定	アクセス許可ロール			
自動入力	<input type="text"/>	<div>設定</div>			自動入力	自動入力

※*は必須項目です。

戻る

登録

項目	入力内容
アクセス	※[最大長]64バイト

3.1.3 プロトコルの登録

「プロトコル」メニューに通信ルールに設定するプロトコルを登録します。



Exastro
IT Automation

マスタ管理_Azureモデル

ようこそ[サンプルユーザ]さん
ログインID [exastro_sample]

ロール

パスワード変更

ログアウト

Menu

メインメニュー

方向

アクセス

プロトコル

説明

△閉じる

通信ルール設定で利用するブルダウンを管理するメニュー

表示フィルタ

▽開く

一覧/更新

▽開く

登録

△閉じる

No	プロトコル*	アクセス権		備考	最終更新日時	最終更新者
		設定	アクセス許可ロール			
自動入力	<input type="text"/>	<div>設定</div>			自動入力	自動入力

※*は必須項目です。

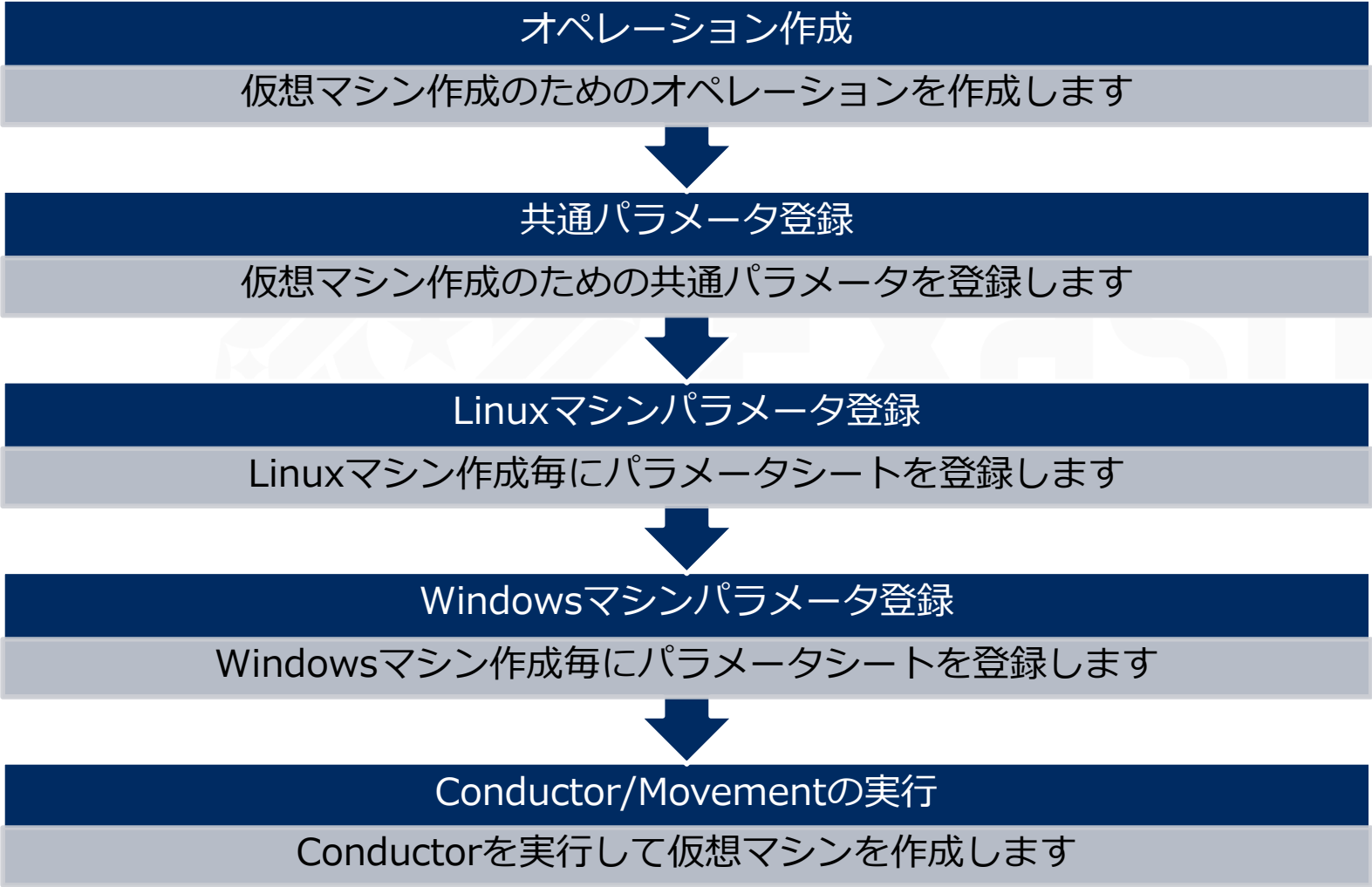
戻る

登録

項目	入力内容
プロトコル	※[最大値]64バイト

3.2 Azureモデルで仮想マシン作成

ここからはAzureモデルを使って、実際に仮想マシンを作成していきます。
まず、仮想マシンを作成するための一連の流れを以下に記載します。



仮想マシン操作	操作の実行
仮想マシン作成	Conductor

3.2.1 オペレーション作成

仮想マシンを操作するためのオペレーションを作成します。



基本コンソール

ようこそ[サンプルユーザ]さん
ログインID [exastro-sample]

パスワード変更

ログアウト

Menu

メインメニュー

機器一覧

オペレーション一覧

Movement一覧

ER図表示

説明

△閉じる

オペレーション一覧をメンテナンス(閲覧/登録/更新/廃止)できます。

表示フィルタ

▽開く

一覧/更新

▽開く

登録

△閉じる

No.	オペレーションID	オペレーション名*	実施予定日時*	アクセス権		備考	最終更新日時	最終更新者
				設定	アクセス許可ロール			
自動入力	自動入力	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<div>設定</div>			自動入力	自動入力

※*は必須項目です。

戻る

登録

項目	入力内容
オペレーション名	仮想マシンを操作する際の任意のオペレーション名
実施予定日時	オペレーションの実施予定日時 ※ここで指定した日付で実際に処理が実行されるわけでは ありません。

3.2.2 共通メニュー

共通メニューに必要なパラメータを入力していきます。

「共通メニュー_Azureモデル」に必要なメニューが登録されています。

The screenshot shows the Exastro IT Automation dashboard. The top navigation bar includes the Exastro logo, the title '共通メニュー_Azureモデル', and user information: 'ようこそ[サンプルユーザ]さん' and 'ログインID [exastro_sample]'. There are buttons for 'ロール', 'パスワード変更', and 'ログアウト'. The left sidebar shows a 'Menu' section with options like 'プロバイダー設定', 'リソースグループ設定', '仮想ネットワーク管理', and 'サブネット設定'. The main content area is titled 'DASHBOARD' and 'メニューグループ'. It displays a grid of menu items, each with an icon and a label. The item '共通メニュー_Azureモデル' is highlighted with a red box. Other items include '管理コンソール', '基本コンソール', 'エクスポート/イン...', 'Symphony', 'Conductor', 'メニュー作成', '比較', 'ホストグループ管理', 'Ansible共通', 'Ansible-Legacy', 'Ansible-Pioneer', 'Ansible-LegacyRole', 'Terraform', 'CI/CD for IaC', 'マスタ管理_Azure...', 'Linuxマシン作成_A...', and 'Windowsマシン作...'.

Icon	Label
	管理コンソール
	基本コンソール
	エクスポート/イン...
	Symphony
	Conductor
	メニュー作成
	比較
	ホストグループ管理
	Ansible共通
	Ansible-Legacy
	Ansible-Pioneer
	Ansible-LegacyRole
	Terraform
	CI/CD for IaC
	マスタ管理_Azure...
	共通メニュー_Azur...
	Linuxマシン作成_A...
	Windowsマシン作...

3.2.2.1 プロバイダー設定

Azure Portalへの接続情報を登録します。



共通メニュー_Azureモデル

ようこそ[サンプルユーザ]さん
ログインID [exastro_sample]

ロール

パスワード変更

ログアウト

Menu

メインメニュー

プロバイダー設定

リソースグループ設定

仮想ネットワーク管理

サブネット設定

説明

表示フィルタ

一覧/更新

登録

No

オペレーション

オペレーション*

自動入力

※*は必須項目です。

戻る

登録

項目		入力内容
オペレーション		仮想マシンを作成する際の任意のオペレーション名
パラメータ	サブスクリプション	Azure Portalのサブスクリプション ※[最大長]64バイト
	テナントID	サブスクリプションのテナントID ※[最大長]64バイト
	クライアントID	使用するクライアントID ※[最大長]64バイト
	クライアントシークレット	使用するクライアントシークレット ※[最大長]64バイト

3.2.2.2 リソースグループ設定

作成したいリソースグループを登録します。



共通メニュー_Azureモデル

ようこそ[サンプルユーザ]さん
ログインID [exastro_sample]

ロール

パスワード変更

ログアウト

Menu

メインメニュー

プロバイダー設定

リソースグループ設定

仮想ネットワーク管理

サブネット設定

説明

表示フィルタ

一覧/更新

登録

No	オペレーション	パラメータ	アクセス権	最終更新日時	最終更新者
	オペレーション*	名前*	ロケーション*	設定	アクセス許可
自動入力	<div></div>				
※*は必須項目です。					
<div>戻る</div>		<div>登録</div>			

	項目	入力内容
	オペレーション	仮想マシンを作成する際の任意のオペレーション名
パラメータ	名前	リソースグループ名 ※[最大長]256バイト
	ロケーション	リソースグループが属するAzureリージョン ※[最大長]256バイト

3.2.2.3 仮想ネットワーク設定

作成したい仮想ネットワークを登録します。



共通メニュー_Azureモデル

ようこそ[サンプルユーザ]さん
ログインID [exastro_sample]

ロール

パスワード変更

ログアウト

Menu

メインメニュー

プロバイダー設定

リソースグループ設定

仮想ネットワーク管理

サブネット設定

説明

表示フィルタ

一覧/更新

登録

No	オペレーション	パラメータ	入力内容
自動入力	<div>オペレーション*</div>		

※*は必須項目です。

戻る

登録

項目	入力内容
オペレーション	仮想マシンを作成する際の任意のオペレーション名
パラメータ	名前 仮想ネットワーク名 ※[最大長]256バイト
	IPアドレス 仮想ネットワークのアドレス範囲 ※[最大長]18バイト ***.***.***.***/**の形式で入力

3.2.2.4 サブネット設定

作成したいサブネットを登録します。



共通メニュー_Azureモデル

ようこそ[サンプルユーザ]さん
ログインID [exastro_sample]

ロール

パスワード変更

ログアウト

Menu

メインメニュー

プロバイダー設定

リソースグループ設定

仮想ネットワーク管理

サブネット設定

説明

表示フィルタ

一覧/更新

登録

項目		入力内容
オペレーション		仮想マシンを作成する際の任意のオペレーション名
パラメータ	代入順序	1~5までの数字を記入する。 数字は1から順番に増加させる。 ※一つのオペレーションに対して1,3,5のようするのはAzureモデルでは非許容
	名前	サブネット名 ※[最大長]256バイト
	IPアドレス	サブネットのアドレス範囲 ※[最大長]18バイト ***.***.***.***/**の形式で入力

No

オペレーション

オペレーション*

自動入力

※*は必須項目です。

戻る

登録

3.2.3 Linuxマシンパラメータ登録

Linuxマシン作成に必要なパラメータを入力していきます。


「Linuxマシン作成_Azureモデル」に必要なメニューが登録されています。

The screenshot displays the Exastro IT Automation dashboard. The top header includes the Exastro logo, the title 'Linuxマシン作成_Azureモデル', and user information: 'ようこそ[サンプルユーザ]さん' and 'ログインID [exastro_sample]'. Navigation links for 'ロール', 'パスワード変更', and 'ログアウト' are present. The main content area is titled 'メニューグループ' and contains a grid of 18 menu items, each with an icon and a label. The item 'Linuxマシン作成_A...' is highlighted with a red border. The left sidebar shows a 'Menu' section with 'メインメニュー' and '通信ルール設定_Linux'.

Icon	Label
	管理コンソール
	基本コンソール
	エクスポート/イン...
	Symphony
	Conductor
	メニュー作成
	比較
	ホストグループ管理
	Ansible共通
	Ansible-Legacy
	Ansible-Pioneer
	Ansible-LegacyRole
	Terraform
	CI/CD for IaC
	マスタ管理_Azure...
	共通メニュー_Azur...
	Linuxマシン作成_A...
	Windowsマシン作...

3.2.3.1 通信ルール設定_Linux

Linuxマシンに設定する通信ルールを作成します。



Linuxマシン作成_Azureモ

Menu

メインメニュー

通信ルール設定_Linux

仮想マシン設定_Linux

説明

表示フィルタ

一覧/更新

登録

No

オペレーション

オペレーション*

自動入力

※*は必須項目です。

戻る

登録

項目	入力内容
オペレーション	仮想マシンを作成する際の任意のオペレーション名
代入順序	1~5までの数字を記入する
名前	サブネット名 ※[最大長]256バイト
優先度	通信ルールの優先度 ※[最小値]100 [最大値]4096
方向	セキュリティの適用方向
アクセス	セキュリティの可否
プロトコル	プロトコル
送信元ポート範囲	送信元のポート番号 (0~65535)
宛先ポート範囲	宛先のポート番号 (0~65535)
送信元アドレス範囲	送信元のアドレス範囲 ※[最大長]18バイト ***.***.***.***/**の形式または「*」で入力
宛先アドレス範囲	宛先のアドレス範囲 ※[最大長]18バイト ***.***.***.***/**の形式または「*」で入力

3.2.3.2 仮想マシン設定_Linux

Linuxマシンに設定する通信ルールを作成します。

Exastro

IT Automation

Linuxマシン作成_Azureモ

Menu

メインメニュー

通信ルール設定_Linux

仮想マシン設定_Linux

説明

表示フィルタ

一覧/更新

登録

No	オペレーション
自動入力	オペレーション*

※*は必須項目です。

戻る

登録

項目			入力内容	
オペレーション			仮想マシンを作成する際の任意のオペレーション名	
パラメータ	代入順序		1～5までの数字を記入する	
	名前		仮想マシン名 ※[最大長]256バイト	
	利用するサブネットの代入順序		「メニュー名：サブネット」から同一のオペレーションで登録されている所属したいレコードの”代入順序”を指定する。	
	サイズ		仮想マシンに使用する必要があるSKU ※例：Standard_DS1_v2など	
	管理者名		ローカル管理者のユーザー名	
	SSHユーザ名		パブリックSSHキーを設定する必要があるユーザー名	
	内部OSディスク	caching	内部OSディスクのキャッシュのタイプ	
		storage_account_type	ストレージアカウントのタイプ ※例：Standard_LRSなど	
	仮想マシンイメージ	publisher		仮想マシンイメージの発行元
		offer	イメージのオファー	
sku		イメージのSKU		
version		イメージのバージョン		

3.2.4 Windowsマシンパラメータ登録

Windowsマシン作成に必要なパラメータを入力していきます。

「Windowsマシン作成_Azureモデル」に必要なメニューが登録されています。

The screenshot displays the Exastro IT Automation dashboard. The top navigation bar includes the Exastro logo, the title "Windowsマシン作成_Azureモデル", and user information: "ようこそ[サンプルユーザ]さん" and "ログインID [exastro_sample]". There are buttons for "ロール", "パスワード変更", and "ログアウト". The main content area is titled "DASHBOARD" and features a "メニューグループ" (Menu Group) section. This section contains a grid of 18 menu items, each with an icon and a label. The items are arranged in three rows of six. The last item in the third row, "Windowsマシン作...", is highlighted with a red border. The left sidebar shows a "メインメニュー" (Main Menu) with options like "通信ルール設定_Windows" and "仮想マシン設定_Windows".

Icon	Label
Management Console	管理コンソール
Basic Console	基本コンソール
Export/Import	エクスポート/イン...
Symphony	Symphony
Conductor	Conductor
Menu Creation	メニュー作成
Comparison	比較
Host Group Management	ホストグループ管理
Ansible Common	Ansible共通
Ansible-Legacy	Ansible-Legacy
Ansible-Pioneer	Ansible-Pioneer
Ansible-LegacyRole	Ansible-LegacyRole
Terraform	Terraform
CI/CD for IaC	CI/CD for IaC
Master Management_Azure...	マスタ管理_Azure...
Common Menu_Azur...	共通メニュー_Azur...
Linux Machine Creation_A...	Linuxマシン作成_A...
Windows Machine Creation_A...	Windowsマシン作...

3.2.4.1 通信ルール設定_Windows

Windowsマシンに設定する通信ルールを作成します。

Exastro

IT Automation

Windowsマシン作成_Azur

Menu

メインメニュー

通信ルール設定_Windows

仮想マシン設定_Windows

説明

表示フィルタ

一覧/更新

登録

No

オペレーション

オペレーション*

自動入力

※*は必須項目です。

戻る

登録

項目		入力内容
オペレーション		仮想マシンを作成する際の任意のオペレーション名
パラメータ	代入順序	1~5までの数字を記入する
	名前	サブネット名 ※[最大長]256バイト
	優先度	通信ルールの優先度 ※[最小値]100 [最大値]4096
	方向	セキュリティの適用方向
	アクセス	セキュリティの可否
	プロトコル	プロトコル
	送信元ポート範囲	送信元のポート番号 (0~65535)
	宛先ポート範囲	宛先のポート番号 (0~65535)
	送信元アドレス範囲	送信元のアドレス範囲 ※[最大長]18バイト ***.***.***.***/**の形式または「*」で入力
	宛先アドレス範囲	送信元のアドレス範囲 ※[最大長]18バイト ***.***.***.***/**の形式または「*」で入力

3.2.4.2 仮想マシン設定_Linux

Linuxマシンに設定する通信ルールを作成します。

Exastro

IT Automation

Windowsマシン作成_Azure

Menu

メインメニュー

通信ルール設定_Windows

仮想マシン設定_Windows

説明

表示フィルタ

一覧/更新

登録

No

オペレーション

オペレーション*

自動入力

※*は必須項目です。

戻る

登録

項目		入力内容
オペレーション		仮想マシンを作成する際の任意のオペレーション名
パラメータ	代入順序	1~5までの数字を記入する
	名前	仮想マシン名 ※[最大長]256バイト
	利用するサブネットの代入順序	「メニュー名：サブネット」から同一のオペレーションで登録されている所属したいレコードの"代入順序"を指定する。
	サイズ	仮想マシンに使用する必要があるSKU ※例：Standard_DS1_v2など
	管理者名	ローカル管理者のユーザー名
	SSHユーザ名	パブリックSSHキーを設定する必要があるユーザー名
	内部OSディスク	内部OSディスクのキャッシュのタイプ
	storage_account_type	ストレージアカウントのタイプ ※例：Standard_LRSなど
	publisher	仮想マシンイメージの発行元
	offer	イメージのオファー
仮想マシンイメージ	sku	イメージのSKU
	version	イメージのバージョン

3.2.5 仮想マシン設定に利用できる値について

■ サイズで利用可能な値

参考URL : <https://docs.microsoft.com/ja-jp/azure/virtual-machines/sizes>

■ 内部OSディスクで利用可能な値

参考URL : https://registry.terraform.io/providers/hashicorp/azurerm/latest/docs/resources/linux_virtual_machine

項目	利用可能値
caching	None
	ReadOnly
	ReadWrite
storage_account_type	Standard_LRS
	StandardSSD_LRS
	Premium_LRS
	StandardSSD_ZRS
	Premium_ZRS

3.2.6 Conductor実行

登録したオペレーションとConductorを組み合わせてConductorを実行します。

詳細は下記のコミュニティサイトの利用手順マニュアルをご確認ください。

- [Exastro-ITA 利用手順マニュアル Conductor.pdf \(exastro-suite.github.io\)](#)

Conductor[一覧]

選択	ConductorクラスID	Conductor名称	説明	アクセス権	備考	最終更新日時	最終更新者
				アクセス許可ロール			
<input checked="" type="radio"/>	270,001	仮想マシン作成				2022/03/30 10:01:06	システム管理者

フィルタ結果件数: 1

オペレーション[一覧]

△閉じる

選択	No.	オペレーションID	オペレーション名	実施予定日時	最終実行日時	アクセス権	備考	最終更新日時	最終更新者
						アクセス許可ロール			
<input checked="" type="radio"/>	270,001	270,001	仮想マシン作成	2022/04/01 12:00				2022/03/30 09:38:56	システム管理者

フィルタ結果件数: 1

3.3 実行結果の確認（1/2）

まずConductor実行画面で正しく終了したことを確認します。

The screenshot displays the Conductor execution interface. On the left, a workflow diagram is shown on a grid background. It consists of three main steps connected by arrows: 1. A blue circle with a white 'S' labeled 'Conductor Start'. 2. A green circle with a white 'DONE' labeled 'Terraform 仮想マシン作成'. 3. A green circle with a white 'DONE' labeled 'Conductor End'. Each step has an 'IN' and 'OUT' port with a plus sign. On the right, a sidebar contains execution details. At the top, there are buttons: 'CHECKING', '全体表示', '表示リセット', and 'フルスクリーン'. Below these, the 'Conductor名称' is shown. The 'Conductor instance ID' is 1. The 'Conductor name' is '仮想マシン作成'. The 'Status' is '正常終了', which is highlighted with a red rectangle. Other details include 'Start time: 2022/04/01 17:06:07', 'End time: 2022/04/01 17:13:32', 'Execution user: システム管理者', 'Reservation date', and 'Emergency stop'. A 'Note' field is at the bottom.

Conductor名称
Conductor instance ID : 1
Conductor name : 仮想マシン作成
Status : 正常終了
Start time : 2022/04/01 17:06:07
End time : 2022/04/01 17:13:32
Execution user : システム管理者
Reservation date :
Emergency stop :
Note

POINT

「Status:正常終了」となっていることを確認
それ以外の場合は途中で失敗しているので、Movementをクリックして詳細を確認してください。

3.3 実行結果の確認 (2/2)

次にAzurePortalから想定した通りに設定されていることを確認します。

The screenshot shows the Azure Portal interface for the 'Azure-Model-Sample' resource group. The 'Basic' tab is active, displaying the subscription ID, location 'Japan East', and a list of resources. A red box highlights the 'Azure-Model-Sample' resource group name in the left sidebar and the 'Japan East' location in the 'Basic' tab. Another red box highlights the list of resources, including 'Azure-Model-Network', 'Linux-NSG-Group', 'Linux01', 'Linux01-NIC', 'Linux01-PublicIP', 'Linux01-OsDisk_1_d7c7c4530adc4385a942bfa6d2d55662', 'Linux02', and 'Linux02-NIC'.

POINT

仮想マシンの設定がITAに登録した通りとなっていることを確認
なっていない場合、パラメータシートを確認して設定誤りなどが無いか確認してください。

4. こんなときは？

4.1作成したLinuxにSSHができない。

■ 鍵認証を有効にしています。下記の手順で下記ファイルを作成してください。

1. 「Conductor」 > 「Conductor作業一覧」へ移動する。
2. 作業対象のレコードの詳細ボタンをクリック。
3. 「仮想マシン作成」をクリックして作業状態確認へ移動する。
4. 進行状況(Applyログ)のフィルタに”Outputs”を入力し、該当行のみ表示をチェックする。
5. 表示されているログの「-----BEGIN RSA PRIVATE KEY-----」から「-----END RSA PRIVATE KEY-----」までをコピーし、テキストエディタに貼り付ける。
6. “\n”となっている箇所で改行させ、拡張子を“.rsa”として、保存する。
※ファイル名は自由

例 : sample.rsa

```
-----BEGIN RSA PRIVATE KEY-----  
MIIJJgjBAAKCAgEAuVVF+U23a8r8  
    ～ 略 ～  
DUITcv76RRZZ4yhglwgHWWdd==  
-----END RSA PRIVATE KEY-----
```

